

(様式2)

令和3年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
定3	川崎市立川崎総合科学高等学校定時制	荒井 利之

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
「ひとづくり」 ○真理を探究し、高邁な人格の育成に努める 「創造」 ○教養を高め、豊かな創造力と健全な批判力の育成に努める 「知識・秘術」 ○工業・商業の知識と技術を習得し、勤労を愛する精神の育成に努める 「鍛錬・良識」 ○良心を鍛錬し、明朗にして良識ある社会人の育成に努める	(1)教職員の資質・能力向上と学校組織の活性化 (2)学習指導・生活指導・進路指導の一本化による学校生活の充実 (3)開かれた学校、信頼される学校づくりの推進 (4)安全・安心で快適な学習環境整備と危機管理 (5)適正かつ計画的な学校事務の遂行	(1)機能的な組織の運営・教職員の資質向上・校内コミュニケーションを通じた相互協力 (2)生徒指導の充実・主体的活動の促進・健康安全 教育の推進・基礎学力と専門教科の充実・主体的な学びを促す学習指導の展開・資格取得の推進・キャリア教育の充実 (3)学校評価システムの充実・学校教育推進会議の 充実・ボランティア活動の充実 (4)学校施設の計画的整備・防災対策を考えた施設整備・安全教育・危機管理体制の充実・特別

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 機能的な組織の運営	校内分掌・各種委員会等の組織の活性化	業務の平準化を図るとともに生徒の実情に合わせた校務分掌作りが求められる。	分掌人事検討委員会を設置し分掌の業務内容を時期ごとに精査した資料を基にして、業務の平準化を目指して分掌の再編をしてから3年目が経つ。これらの検証も含め、今後も円滑に運用していくため改善を図る。
2 教職員の資質向上	教員の研修体制の確立と実践	計画的な学校内外での研修を通して、教職の専門的な知識・技能の向上に取り組んでいる。	夏期休業期間の学校外研修に参加し、教員の資質向上に取り組むとともに、教職の専門的知識・技能を深める校内研修をさらに積極的に取り入れていきたい。
3 校内コミュニケーションを通じた相互協力	全教職員が一致協力して学校経営計画を推進する	ほとんどの教員が、同じ職員室に活動しているため、科や学年、分掌の枠を越えて、コミュニケーションを行うことができている。	職員室内の什器等のレイアウトが教科を中心として考えられているが、学年や分掌を中心とした配置について検証していく。
4 生徒指導の充実	基本的生活習慣の確立	生徒への継続的な声かけや学校内外の見回りを実施することで、落ち着いた学校生活を送れる環境を整えている。入学時オリエンテーションや定期的な全体集会を通じて学校生活におけるルールの周知徹底を行っている。	今後も生徒指導に対する共通理解を図りつつ、全職員が連携をとりながら生徒指導に取り組んでいく。その一方で生徒に対してもオリエンテーションや全体集会、継続的な声かけを通して、学校全体における基本的生活習慣を育てる。
5 主体的活動の促進	HR活動・生徒活動・部活動の充実	新入生歓迎会や弁論大会、社会見学、部活動・同好会の運営に生徒のアイデアを積極的に取り入れ、生徒の主体的な取り組みを充実させた。今年度は、卓球部の全国大会優勝を筆頭にバドミントン部、陸上部も全国大会で活躍するなど結果を残した。	引き続き、生徒会活動や部活動・同好会において生徒のアイデアを取り入れながら、生徒の主体的活動を進めていく。部活動の活性化をさらに推進する。
6 健康安全教育の推進	学期ごとの全体集会・外部講師による講演	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、計画していた取組が中止になったり、縮小したりしたが、可能な範囲で実施した。	引き続き最新の知識を持つ講師等を招聘し、健康や安全に関する講演や活動を継続することで、生徒の健康や安全に対する意識の向上や薬物乱用防止に取り組む。

7	基礎学力と専門科目の充実	基礎・基本の徹底	放課後や長期休業などを利用して基礎学力充実のための指導を行った。令和4年度からの教育課程の編成において、基礎学力の充実を目的とする学校設定科目を設定した。	令和4年度に向け、新しい教育課程の編成、指導と評価の一体化について検討する。学校設定科目を活用し、今後も生徒の学力に応じて授業展開するとともに、必要な生徒には、始業前・放課後や長期休業期間などを利用して、基礎的な内容の定着を図る。
8	主体的な学びを促す学習指導の展開	学び方や学習方法の指導を充実させる	クリエイト工学科及び商業科の教育課程に基づく教育活動の実践の中で、主体的な学びを促す学習指導の展開に留意した。	学び方や学習方法の指導など学習ガイダンスを充実させ、学習意欲の向上を図り、自学自習の習慣を身に付けることを通して、生徒の進路目標到達、自己実現を支援する取り組みとする。
9	資格取得の推進	各種技能検定や資格取得の支援と学習意欲を育てる	電気工事士や情報技術検定試験、計算技術検定試験、英語検定対策の講習会を定期的実施し、それぞれの資格において合格者を出している。その他、アーク溶接やクレーン、ITパスポート試験などの資格取得も推進している。	キャリア教育の一環として、資格検定対策講習会を放課後や週末にも積極的に展開し、生徒の資格取得に対する意欲を育てる。
10	キャリア教育の充実	地域企業との連携による、企業人の講演、会社見学、就労体験活動を実施する	地域企業と連携し、会社訪問や就労体験を数多く実施することができた。また、地域企業の技術者を講師として招き、ものづくりや実技講習会を実施した。	今後も会社訪問や就労体験、講演会、実技講習会を通して、生徒の望ましい勤労観・職業観の形成や就労意識の向上を図る。また、大学や専門学校への進学指導も実践する。
11	将来を見据えた教育課程の編成	学習指導要領改編を踏まえた教育課程の編成	令和4年度からの新学習指導要領を踏まえ、教育課程の編成を行った。特に、継続的な学び、基礎学力の充実、資格取得に重点をおけるよう専門学科と共通教科で検討を重ねた。	共通教科の継続的な学び、専門学科による実習や資格取得の充実に加え、基礎学力の定着を図るための学校設定科目の設定による実践を踏まえ、状況に応じた改善を行う。
12	学校評価システムの充実	評価システムの円滑な推進と校内研修会の充実	昨年度の学校評価システムで得た結果を参考に学校運営に取り組んできた。なお、アンケート集計方法にはマークシート処理方式及び、WEBを活用した方法を取り入れ、学校評価システムの円滑な推進を図った。	マークシート方式及びWEB方式のアンケート集計について、よりスムーズな集計ができるように改善し、学校評価システム委員会の円滑な運営を図り、より有意義な学校評価を目指す。
13	学校教育推進会議の充実	地域社会に開かれた学校作り	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学校教育推進会議が実施できなかったが、WEBサイトを利用し、保護者や生徒、地域の有識者に対して学校の様子を説明、報告することで開かれた学校づくりを進めている。	学校教育推進会議や生徒・保護者・教員へのアンケートで得た結果を公開し、学校運営の改善に努める。
14	ボランティア活動の充実	生徒・教員による地域清掃活動	生徒会が主体となって、全校生徒により、御幸公園や多摩川河川敷、第二京浜国道、小向仲野町周辺の地域清掃活動などを計画していたが、コロナ禍の影響で実施できなかった。	今後も、ボランティア活動に取り組むことで、地域の一員としての自覚を育むとともに、地域に根付く学校教育を進める。
15	学校施設の計画的整備	校舎破損箇所修繕と安全管理	整備計画に基づき、今年度はエアコン、トイレ等の修繕が行われた。	今後も安心・安全に学校生活を送れるよう施設整備及び管理を行う。
16	防災対策を考えた施設整備	防災対策として緊急時必要となる施設・設備の点検と整備	職員から意見を集め、緊急時必要となる施設・設備の点検と備蓄品の確保を行った。	防災設備や備品などを定期的に確認し、緊急時に利用できる体制を整える。

17	安全教育・危機管理体制の充実	防災対策を見直し、危機管理体制の充実を図り、緊急時に備える	防災委員会を中心に防災マニュアルを見直すとともに職員に周知した。災害時帰宅方法別名簿に基づいた地震対応の避難・帰宅訓練及び備蓄食料の必要性についての学習会を実施した。	今後も避難訓練や全体集会を通じて防災に対する意識の啓発をしていく。また、定期的に避難経路や通信手段の確保、防災設備の点検を行う。
18	特別支援教育の推進	個を大切にした指導の充実に努める	職員会議や学年会において支援を必要とする生徒の情報交換を行い、職員間の理解を深めている。また、特別支援教育の研修会を実施し職員のスキルアップに努めるとともに、総合教育センターなど関係機関との連携を図った。	継続して学校巡回カウンセラーや地域支援コーディネーターの協力や関係機関との連携を図りながら、特別支援対象生徒に応じた教育を進めていく。

学校関係者の評価		今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて	
<p>・学校の周りの町内会は浸水ハザードマップで危険想定地域に指定されている。災害時には近隣の避難所になっている学校なので自主防災倉庫もおかせてもらっている。避難所開設訓練なども行っている。今後ご協力願いたい。(町内会代表)</p>		<p>キャリア教育の充実や様々な工業・商業系資格の取得推進により、専門高校の特色を活かす教育活動を展開することができた。今年度は、外部講師を招き、生き方在り方についての講演を実施したが、生徒たちに目標を持って努力することの大切さを再認識する貴重な機会となった。資格取得試験に向けて放課後や休日の補習等を積極的に取り組む生徒も多く、合格者も増えている。今後も基礎学力の充実と望ましい職業観・勤労観の形成に努め、社会に貢献できる人材の育成に努めたい。生徒の授業に臨む態度は、大変落ち着きがあり、生徒会行事においても生徒が主体的に活動に取り組んでいる。部活動においても各種大会での成果も挙げている。また、特別支援教育においては外部機関と連携し個々の生徒の特性に対して向上している。専門学科であるクリエイト工学科、商業科という性格の異なる2学科が併設されていることを本校の優位性にとらえ、これを生かした学校作りを考え、基礎学力の充実や新たな教材を活用した取組を検討・実施していきたい。</p>	